

平成29年4月9日(日)

## 平成29年度1学期始業式

おはようございます。新しく赴任しました、宮野原章史といたします。これからどうぞよろしくおねがいいたします。

まずは、自己紹介をします。私の名前はかなり珍しいそうです。特に、「の」の字が野球の「野」であるものは全国でも少ないそうです。画数が多いのが難点で、自分の名前を書くのにいつも時間がかかります。

私は本校の卒業生です。母校の校長を拝命したことを大変名誉に感じています。

家族は、妻に息子に娘です。子供たちは二人とも東京で就職しています。夫婦二人きりの寂しい生活になってかなりたちます。皆さんは、保護者との関係はどうか。私は子供が家からいなくなってこんなに寂しいことはありません。二人が家にいるときは、帰るのが楽しみでなりません。親にとって子供はそんな存在なのです。

さて、1年間の最初の日に当たり、今日は皆さんに考えてほしい質問があります。それは「人はなぜ学ぶのか」というものです。

正解は一つではないと思います。まず、「自分のために学ぶ」という答えがあるでしょう。幸福な人生を送るために、しっかりと学んで社会人として通用するための力を身につける、ということです。とても大切な考え方です。

しかし、わたしは別の答えももっています。それは「まだ見ぬ赤の他人のために学ぶ」というものです。言い換えると、「誰かの役に立つために学ぶ」ということです。

我々人間の進化の歴史は、常に先人の学びを土台にして行われてきました。今、我々が謳歌している数々の豊かさは、誰かが必死に学んだ結果を元に作られています。

あるいは我々の1日を考えても、朝起きて食事をする。その食事の材料は作った人がおり、運んだ人がおり、販売した人がいて食卓に並んでいます。その一つ一つの行為もまたその人たちが必死に学んだ結果によって成立しています。

このように、我々は学びの結果によって誰かの役に立つ人間になれる。それこそが我々の最も大きな幸福だと思います。

人類が大きな進歩を遂げ、学問の世界は複雑で専門化が進みました。しかし、いかに難解な学問であってもその基本はギリシアのアカデミアの時代から変わっていません。すなわち普通教科5教科であり、実技教科の芸術体育家庭科です。皆さんはこれらの基礎をしっかりと身につけることで、次の応用の学問を学ぶことができます。その結果、誰かの役に立てる力を身につけることができるのです。

もう一つ付け加えたいことがあります。もしも「自分のために学ぶ」という答えしかない人は、「もうこれくらいでいい」と自分の限界を決めてしまうと、そこで学びが止まることになります。それでは誰かの役に立つ人間になることは難しいでしょう。我々は、自分への責任だけでなく、まだ見ぬ赤の他人という他への責任も持って学び続ける必要があるのです。

今日から新しい年度が始まります。途中で成績が伸びずに苦しい思いをすることもあるでしょう。しかし、まだ見ぬ赤の他人のために、その困難を挫けず乗り越えて、学び続けてください。生徒の皆さん一人ひとりの、今年度の学びがさらに進化し、素晴らしいものとなることを期待し、本年度始業の挨拶といたします。